電子書籍　図書出版かなえの民俗学資料

民俗学研究の原点といわれる「民間傳承」「旅と傳説」「郷土研究」を電子書籍で復刻。
各誌の用語を横断検索でき、民俗学研究の発展に貢献できる資料群!!

2023年
11月
発売予定

旅と傳説 復刻版

創刊当時は旅に関する記述が多かった本誌。
創刊八号目の昭和３年８月号から柳田國男の伝説論「木思石語」の連載が始まり、以降、中山太郎、早川孝太郎、佐々木喜善、南方熊楠、折口信夫、本田安次らの寄稿が続き、民俗学雑誌へと変化していった。
また、一般読者へも民俗調査の報告を投稿するよう呼びかけられた。

■ 第１回配本（1928年１月号～1928年12月号／予定）
本体価格 154,000円＋税　ISBN978-4-86759-428-5

１アクセス・３アクセス共に同一価格です

本書を推薦いたします（敬称略）

関西学院大学社会学部長　**島村 恭則**

民俗学は、『郷土研究』、『民間伝承』、『旅と伝説』といった民俗学系雑誌とともに成長してきた。それは、全国各地の在野研究者から寄せられる膨大な事例が掲載された資料の宝庫だったのだ。

かつて、民俗学者は、これらの雑誌を手元に揃えていた。1970年代には、復刻版も刊行されていた。
しかし、その後、入手困難になったこともあり、これらの雑誌を活用する人は少なくなった。

そうした中で行なわれる今回の電子書籍化は、状況を一転させる可能性が大いにある。電子化されることで、これらの雑誌を、いつどこにいても瞬時に読むことが可能になる。明治期から戦後期まで順番に目を通してもよいし、好きなところから拾い読みを重ねていってもよい。これにより、読者はつぎつぎと新たな発見をしていくことだろう。埋蔵金の発掘のようなものだ。

そうして見つけたテーマや事例に、現代の新たな方法論や理論でアプローチすれば、必ずや新鮮な研究が生まれることだろう。
また、電子版には、検索機能が備えられている。
ある民俗事象のキーワードを入れれば、一瞬にしてたくさんの類例を集めることが可能だ。比較研究が大いに進むことになる。
私は、民俗学初学者の頃、これらの雑誌の復刻版を手に取り、むさぼるように読んでいた。

どの号も、ワクワクしながら頁を開いた。そして、こんな雑誌が毎月届いたら、どんなに楽しいことかと思った。

いま、われわれは、電子化によって『郷土研究』、『民間伝承』、『旅と伝説』をいつでも読むことが出来る。
民俗学の楽しみに思う存分浸れるのだ。

民俗学の発展を支えた三大雑誌
――電子版で再生する民俗資料の宝庫――

お奨めします

民俗学、文化人類学、観光学、言語学、社会学、芸能、宗教、神道の研究者、大学図書館、公共図書館など

解説：島村恭則　関西学院大学社会学部長（『民間傳承』『旅と傳説』共に）

株式会社かなえ
〒170-0014　東京都豊島区池袋1-10-8　TEL：03-3982-6633　FAX：03-6789-5706
Email：info@kanae-book.co.jp　ＵＲＬ：https://kanae-book.co.jp

試読できます！
こちらから→
（11月予定）